

# 子どもたちの話し合い

自分たちの学校は自分たちでつくる

2018.04.20

No.06

校長 渡邊 幸二

いよいよ明日は授業参観。先生方の疲労も、緊張もピークとなり、心身ともにへとへとなのではないかと想像します。本当にご苦労さまです。この授業参観が終わると、あっという間に連休が来て、あっという間に5月になります。S. J先生がしばらくいなくなるのが寂しいです。同時に4月という1ヶ月が過ぎてしまうというのも現実です。

## 代表委員会～子どもたちの話し合い

昨日は第1回目の代表委員会が行われました。4月という超多忙の時期に、委員会活動を出発させ、この代表委員会ができるようにするというのは、6年担任にとってとても大変なことだと思います。にもかかわらず、昨日の会は、どの学級からもきちんと意見が準備され、また、リーダーの子どもたちも自分たちでやらなければという意識の元で進められていました。



最後に「校長先生のお話」と会のレジメにあり、次のようなことをお話させていただきました。

### ① 「児童会」は誰の会かということ

当然ですが、「児童」の「児童」による「児童」のための会です。（アメリカの大統領リンカーンの演説「人民の人民による人民のための政治」と同じですね。）ですから、先生が一生懸命やって立派な活動がなされたとしても、それは「先生会」の活動であって児童会ではありません。児童が主体となって、児童のための活動となっていれば、少々失敗しても、見てくれが悪くとも良しと考えます。結果ではなく、その過程を重視していきましょう。

### ② 「話し合う」って、少しむずかしい

昨日の話し合いは、児童会目標についてがメインでした。各学級からたくさんの意見が出されていたので、どうまとめるかが難しいように思いました。

特別活動の学習指導要領は今年度から実施されることになっていますが、その中では自分たちの生活を見つめ、学級活動などを通して改善していくことが謳われています。学校経営方針でも「自分たちの学校は自分たちでつくる」ことを重視していますが、まさ

にこのことです。ですから、学級においても、児童会においても、こういう話し合い(別に短時間でもかまわない)を大切にしてください。



その際、話し合う際、何かを「**決める**」という行為が重要だと思ふのです。本当それでいいのか真剣に子どもたちが考え、悩む場があるということです。どうしてもいいことなら話し合う意味はありませんし、きっと退屈な話し合いとなり、「会議ってこういうものか」と悪い学習をしてしまいます。ですから、緊張感があったり、わくわく感があったりするようなテーマだと、きっと話し合いが白熱するのだと思います。

## 限定する

たとえばというので、子どもたちには、たくさんある候補から、あるいはいくつかの候補から「**3つ選ぶ**」ということをする、思考が活性化し、よいものを選ぶことができると話しました。先日のE先生のマイスター通信にも、「**限定**」「**制約**」「**禁止**」などの条件が加わることによって思考は刺激されて活性する」とありましたが、子どもの話し合いも、おそらく大人の会議、たとえば職員会議も同じ理屈が通ると思います。

もし3つを選ぶとなると、どれが一番か喧々諤々とした論争になると思います。もしかすると3つではなく結局4つになるかもしれませんが、子どもたちの心に刻まれた児童会目標となるのではないかと思います。

## 理由を言う

そして、決め手となる根拠がその意見・主張の「理由」だと思います。そうでなければ、声の大きい人が勝つというような低レベルな議会となるでしょう。児童会だけでなく、普段の授業でも、この「**根拠**」「**理由**」ということセットに話す、主張するというクセ付けをしていきましょう。

